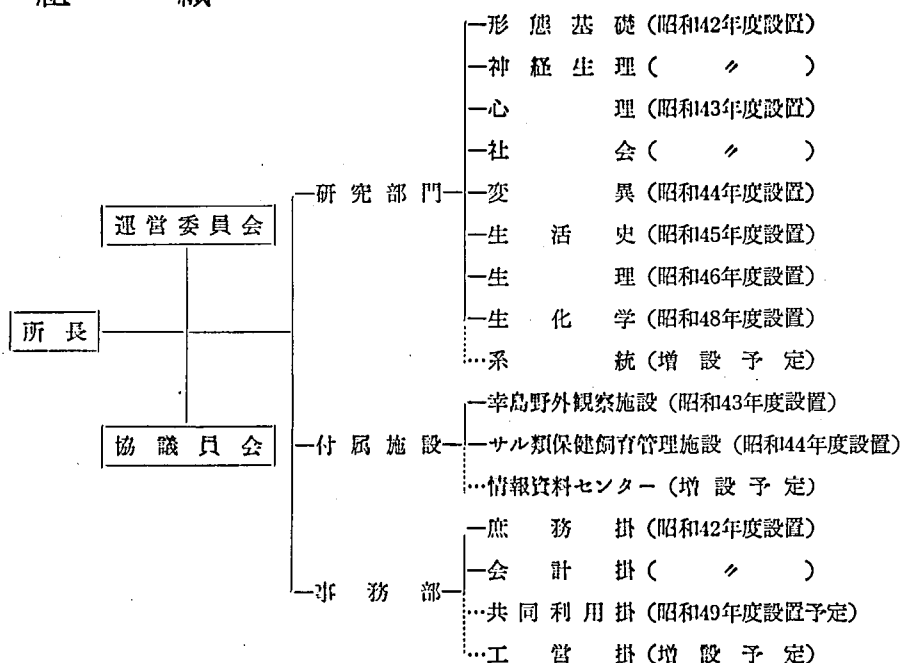


# I 研究所の概要

## 1. 組織



所長 大沢 济

運営委員 (50音順)

- 伊谷純一郎 (京大・理)
- 糸魚川直祐 (阪大・人科)
- 今西錦司
- 岩本光雄 (霊長研)
- 伊沢紘生 (日本モンキーセンター)
- 河合雅雄 (霊長研)
- 久保田 競 (霊長研)
- 近藤四郎 (霊長研)
- 宮地伝三郎 (日本モンキーセンター)
- 水原洋城 (日本モンキーセンター)

事務長 大村 茂

## 現 員

年度	区分	教授	助教授	助手	小計	事務系員	非常勤員	小計	合計
昭和48年度		7	8	18	33	28	17	45	78

## 大学院学生および研修員

年度	区分	博士課程	修士課程	研修員	合計
昭和48年度		0	5	4	9

## 2. 予算概況

区分 年度	経常費			共同利用研究施設 運営費		設備 経費	小計	科学 研究費	合計
	人件費	旅費 <sup>1)</sup>	物件費	物件費	旅費				
昭和48年度	千円 119,439	千円 8,439	千円 48,677	千円 33,122	千円 7,552	千円 19,284	千円 236,513	千円 49,550	千円 286,063

<sup>1)</sup> 外国旅費および赴任旅費を含む。

### 科学研究費

年度・種類	研究課題	研究代表者	補助金額 千円
(昭和48年度)			
特定研究 (1)	中枢神経系の出力制御機序の研究	久保田 競	12,550
〃 (2)	スプリット・ブレインにおける視覚情報伝達と反応決定の機構の研究	室伏 靖子	4,000
一般研究 (A)	霊長類の生殖生理に関する基礎的研究	大島 清	7,300
〃 (B)	サルの前頭葉ニューロンの「連合」機能の研究	久保田 競	4,300
〃 (B)	霊長類の体温調節に関する比較生理学的研究	近藤 四郎	3,000
〃 (C)	ニホンザルの個体群維持機構の研究	杉山 幸丸	1,300
〃 (C)	霊長類とくにニホンザルの「て」の形態と生活との関連	江原 昭善	1,260
〃 (D)	頭骨にもとづく旧世界ザル特にマカクの系統関係に関する研究	岩本 光雄	260
奨励研究 (A)	ニホンザル集団中の有害劣性遺伝子量の測定に関する研究	庄武 孝義	280
総合研究 (A)	ニホンザルの内部寄生虫に関する総合的研究	大沢 濟	1,000
試験研究 (2)	心理実験汎用オンラインシステムの開発	室伏 靖子	5,500
海外学術調査 (成果のとりまとめ)	インドを中心とする狭鼻猿の社会生態学及び動物地理学的研究の成果のとりまとめ	杉山 幸丸	800
海外学術調査 (現地調査)	エチオピア高地におけるゲラダヒヒのテレメトリ法を用いた生態学的、社会学的研究	河合 雅雄	8,000
合計	13 件		49,550

## 3. 研究設備 (昭和48年度新設分)

### 形態基礎研究部門

オシロスコープ連続撮影装置 (日本光電 PC-2B), 2 ch.  
直流増幅器 2 (三栄測器 6L-5)。

### 神経生理研究部門

PDP-12A のコアメモリーを 4 K 語増やして 12 K 語となった。

### 心理研究部門

実験用コンピュータ PDP-8/F (8 K 語, プログラマブ

ル・リアルタイムクロック, 停電検出器, デジタル入出力器, ASR 33 テレタイプ付), 4ch. ポータブル・データレコーダ (ティアック R410)。

### 社会研究部門

望遠暗視装置 (アウル・アイ) 一式。

### 変異研究部門

スーパーフリーザー (UW500), モータードライブ一式 (ニコン MF-1)。

### 生理研究部門

オートウェル・ガンマシステム (JDC-752), クルドスコ

ーブー式、日立ダブルビーム分光光度計(124型)。

生化学研究部門

高速冷却遠心機、低速遠心機、マイクロ直示天秤、自動上皿天秤、エレクトロ・フォーカシング装置、電気泳動装置、フラクション・コレクター、酸素電極、三眼顕微鏡、加水分解炉、pHメーター、フリーザー、恒温槽、真空ポンプ、蒸溜水製造装置、ドラフト・チェンバー。

サル類保健飼育管理施設

未熟児保育器(アトムN-52)、滑走式大型マイクローム、ライフル型麻醉銃、ピストル型麻醉銃、パラフィン融解器、パラフィン伸展器、電気孵卵器、遠隔監視用テレビ録画装置一式。

4. 図 書

図書室は、3名の教官からなる図書委員と、1名の非常勤職員によって運営されている。本来図書室は、各種専門分野の共同の情報源として、利用者側に立って、検索システムの確立やその他の機能を果していくべきものであろうが、人員の不足から、発注・登録・会計事務など、管理上の業務に終始せざるを得ない現状である。ま

た、現在図書室には、4スパンの部屋が与えられているが、雑誌架・書架・文献複写機・事務機・読書用机・ファイリング・キャビネットなどが置かれ、著しく手狭になっており、空間の確保と人員の補充が急務となっている。このような観点から、研究所附属施設として申請中の情報資料センターができることを期待している。

第1表には、各年度の書籍(雑誌をのぞく)の購入状態を部門別に示してある。本研究所在創立された昭和42年(1967)には、わずか6冊の書籍(和書)があったにすぎないが、翌43年には、和書80冊、洋書69冊になり、昭和48年度末には、和書1,076冊、洋書1,665冊にまで蔵書冊数が増加した。特に昭和48年度には故吉場勉二助教授(社会研究部門)の御遺族から和書46冊、洋書61冊の寄贈を受け、また徳田御稔先生の蔵書の一部(和書598冊、洋書219冊)を購入することができた。これらの書籍は、それぞれ「吉場文庫」「徳田文庫」として、図書室の一隅に整理されている。なおこれまでに図書室が購入した“共通”の書籍(和洋書136冊)は、地図・辞書類など霊長類研究の全般にわたる内容を持ったものであるが、まだ不充分であることは否めない。

第2表aに年度別の和洋雑誌数を、bには昭和48年度

第1表 年度別・部門別蔵書冊数

部 門	和 書								洋 書							
	42	43	44	45	46	47	48	計	42	43	44	45	46	47	48	計
形 態 基 礎			48	2	0	0	1	51			19	9	12	5	4	49
神 経 生 理			12	2	0	2	0	16			12	14	28	17	30	101
心 理 学			1	2	2	1	0	6			53	24	67	31	20	195
社 会 学			18	8	0	3	7	36			52	51	3	5	1	112
変 異 学			10	1	1	0	0	12			1	16	6	3	7	33
生 活 史				6	1	1	7	15				61	19	11	10	101
生 理 学						20	5	29					12	9	7	28
生 化 学							0	0							0	0
サ ル 施 設			16	0	19	3	7	45			20	13	13	9	1	56
事 務 室	6							6								0
中 央		74						74		69				8		77
研 究 林							52	52								0
科学研究費購入							1	1						14		14
図 書 室			13	5	1	6	41	66			0	4	30	20	9	63
寄 贈			0	3	3	1	4	11			4	0	5	15	0	24
製 本 雑 誌			0	0	12	0	0	12			60	0	254	54	164	532
吉 場 文 庫 <sup>1)</sup>							46	46							61	61
徳 田 文 庫							598	598							219	219
計	6	74	118	29	59	23	767	1,076	0	69	221	192	449	201	533	1,665

<sup>1)</sup> 吉場文庫は全て寄贈の欄に記されるべきものであるが、ここでは別扱いとした。

第2表 a. 年度別和洋雑誌数

年度	和雑誌	洋雑誌
44	4	47 + 1
45	4	58 + 1
46	13 + 1	63 + 1
47	14 + 1	75 + 1
48	19 + 1	83 + 1

- 1) +1 は寄贈。  
 2) 42, 43年度については、資料が欠落している。  
 3) 中国雑誌は図書分類上、和雑誌にカテゴライズされている。

第2表 b. 48年度の部門別購読雑誌数

部門	和雑誌	洋雑誌
形態基礎	0	11
神経生理	2	15
心理	0	18
社会	0	3
変異	5	3
生活史	0	8
生理	4	14
生化学	0	0
サル施設	6	5
図書室	6	5
寄贈	1	1
計	20	84

- 1) 変異部門の和雑誌はすべて中国雑誌。

第3表 a. 和雑誌及び中国雑誌リスト

和雑誌	刊行区分 <sup>1)</sup>	所蔵巻(年号) <sup>2)</sup>
科学	M	38(1968)+
科学朝日	M	28(1968)+
自然	M	23(1968)+
出版ニュース	3/M	[1969]+
学術月報	M	21(1969)+
バイオテク		[4(1973)]
脳と神経	M	24(1972)+
神経研究の進歩	B-M	16(1972)+
ホルモンと臨床	M	[19(1971)]+
医学と生物学	M	82(1971)+
日本医事新報	W	(1971-73)
最新医学	M	26(1971)+
産婦人科の世界	M	23(1971-72)
産科と婦人科	M	38(1971-72)
蛋白質・核酸・酵素	M	19(1974)+
臨床検査	M+i	15(1971)+
日本獣医師会雑誌	M	26(1973)+
世界動物百科 <sup>3)</sup>	W	1(1971)+
中国雑誌		
古脊椎動物考古人類	2N	11(1973)+
考古学報	2N	(1973)+
植物学報	Q	15(1973)+
動物学報	Q	19(1973)+
地質科学	Q	(1973)+

第3表 b. 洋雑誌リスト

雑誌名	発行国 <sup>1)</sup>	刊行区分 <sup>1)</sup>	所蔵巻(年号) <sup>2)</sup>
Acta Endocrinologica.	D	M	75(1974)+
Acta Physiologica Scandinavica.	Sd	M	78(1970)+
Acta Neurobiologiae Experimentalis.	P	Q	32(1972)+
Advances in Enzymology.	A	A	40(1974)+
Advances in Protein Chemistry.	A	A	28(1974)+
American Anthropologist.	A	BM	70(1968)+
American Journal of Anatomy.	A	M	139(1974)+
American Journal of Human Genetics.	A	BM	20(1968)+
American Journal of Obstetrics and Gynecology.	A	SM	110(1971)+
American Journal of Physical Anthropology.	A	BM	28(1968)+
American Journal of Physical Medicine.	A	BM	50(1971)+

American Journal of Physiology.	A	M	222(1972)+
American Naturalist.	A	BM	106(1972)+
American Psychologist.	A	M	29(1974)+
Analytical Biochemistry.	A	M	157(1974)+
Anatomical Record.	A	M	166(1970)+
Anatomischer Anzeiger.	G	2Bd	126(1970)+
Animal Behavior.	E	Q	17(1969)+
Animal Learning & Behavior.	A	Q	1(1973)+
Annual Review of Biochemistry.	A	A	43(1974)+
Annual Review of Physiology.	A	A	26(1964)—27(1965)
Annual Review of Psychology.	A	A	16(1965)+
Anthropologie.	F	Q	72(1968)—74(1970)
Anthropologischer Anzeiger.	G	Q	31(1968)+
Anthropological Quarterly.	A	Q	41(1968)+
Archeves Italiennes de Biologie.	I	Q	106(1968)+
Archeves Suisses d'Anthropologie Generale.	S		32(1967)—33(1969)
Australian Journal of Zoology.	Au	4N	22(1974)+
Behaviour.	H	16N	33(1969)+
Behavior Research Methods and Instrumentation.	A	BM	1(1968)+
Behavioral Science.	A	BM	10(1965)+
Bibliography of Reproduction.	E	M	17(1971)+
Biochemistry.	A	BM	13(1974)+
Biochemical & Biophysical Research Communications.	A	SM	56(1974)+
Biochimica et Biophysica Acta (Protein Structure).	H	12N	344(1974)+
Biology of the Neonate.	S	M	24(1974)+
Brain, Behavior and Evolution.	S	BM	2(1969)+
Brain Research.	H	W	1(1966)+
Bulletins et Memoires de la Societe d'Anthropologie de Paris.	F	Q	3(1968)—6(1970)
Bulletin of Psychonomic Society.	A	M	1(1973)+
Canadian Journal of Psychology.	C	Q	19(1965)+
Communications in Behavioral Biology.	A	M	2(1968)+
Conditional Reflex.	A	Q	4(1969)—6(1971)
Cortex.	I	Q	9(1973)+
Current Anthropology.	A	5N	(1960)+
Current Contents: Behavioral, Social & Educational Sciences.	A	W	1(1969)— 5(1973)
Current Contents: Life Sciences.	A	W	12(1969)—16(1973)
Developmental Psychology.	A	BM	1(1969)+
Ecological Monographs.	A	Q	40(1970)+
Electroencephalography and Clinical Neurophysiology.	H	M	1(1949)+
Electromyography and Clinical Neurophysiology.	Be	Q	12(1971)+
Endocrinology.	A	M	90(1972)+
Excerpta Medica. Sect. 1	H	M	22(1968)—24(1970)
Excerpta Medica. Sect. 10	H	M	24(1971)—25(1972)
Experimental Brain Research.	G	3Bd	1(1966)+
Experimental Neurology.	A	M	1(1959)+
Federation Proceedings.	A	M	32(1973)+

Fertility and Sterility.	A	M	23(1972)+
Folia Primatologica.	S	BM	8(1968)+
Hormones and Behavior.	A	Q	2(1971)+
Human Biology.	A	Q	40(1968)+
Human Ecology.	A	Q	2(1974)+
Journal of the American Veterinary Medical Association.	A	SM	160(1972)—163(1973)
Journal of Animal Ecology.	E	3 N	39(1970)+
Journal of Applied Physiology.	A	M	32(1972)+
Journal of Biological Chemistry.	A	SM	249(1974)+
Journal of Biomechanics.	E	BM	7(1974)+
Journal of Bone and Joint Surgery. (American Volume)	E & A	8 N	52A(1970)+
Journal of Bone and Joint Surgery. (British Volume)	E & A	4 N	52B(1970)+
Journal of Comparative Neurology.	A	SM	144(1972)+
Journal of Comparative and Physiological Psychology.	A	M	59(1965)+
Journal of Ecology.	E	3 N	58(1970)+
Journal of Endocrinology.	E	M	49(1971)+
Journal of the Experimental Analysis of Behavior.	A	BM	1(1958)+
Journal of Experimental Psychology.	A	M	79(1969)+
Journal of Human Evolution.	E	BM	1(1972)+
Journal of Mammalogy.	A	Q	52(1971)+
Journal of Medical Primatology.	S	BM	1(1972)+
Journal of Molecular Evolution.	G	4 N	4(1974)+
Journal of Neurochemistry.	E	M	22(1974)+
Journal of Neurophysiology.	A	BM	31(1968)+
Journal of Physiology.	E	SM	156(1961)+
Journal of Reproduction and Fertility.	E	M	32(1973)+
Journal of Wildlife Management.	A	Q	33(1969)+
Laboratory Animals.	E	2 N	1(1967)+
Laboratory Animal Science.	A	BM	20(1970)+
Life Sciences. Pt. I: Physiology and Pharmacology.	E	SM	11(1972)—[12(1973)]
Man: Journal of Royal Anthropological Institute.	E	Q	3(1968)+
Memory & Cognition.	A	Q	1(1973)+
Nature.	E	W	217(1968)+
Neuroendocrinology.	S	M	7(1971)+
Neuropsychologia.	E	Q	1(1963)+
Нейрофизиология.	R	6 N	[2(1970)]+
Oikos: Acta Oecologica Scandinavica.	D	3 N	25(1974)+
Oryx: Journal of Society for Preservation of Fauna of Empire.	E	3 N	12(1973)+
Proceedings of the National Academy of Sciences.	A	M	73(1974)+
Perceptual and Motor Skills.	A	BM	28(1969)+
Prostaglandins.	A	M	1(1972)+
Physiology and Behavior.	E	M	1(1967)+
Physiological Reviews.	A	Q	50(1970)+
Physiological Zoology.	A	Q	45(1972)+
Physiological Psychology.	A	Q	1(1973)+
Primates: Journal of Primatology. <sup>3)</sup>	J	Q	1(1958)+
Psychological Abstracts.	A	M	39(1965)+

Psychological Bulletin.	A	M	63(1965)+
Psychological Review.	A	BM	73(1966)+
Psychonomic Science.	A		1(1964)—29(1972)
Science.	A	W	[1966-1968]—163(1969)+
Scientific American.	A	M	220(1969)+
Southwestern Journal of Anthropology.	A	Q	24(1968)+
Soviet Anthropology and Archaeology.	A	Q	7(1968)+
Soviet Psychology.	A	Q	7(1969)—9(1971)
Zeitschrift für Morphologie und Anthropologie.	G	3 N	60(1968)+
Zeitschrift für Versuchstierkunde.	EG	BM	14(1972)+

1) W =週刊	Q =季刊	4 N = 4	◇
3/M =旬刊	A =年刊	5 N = 5	◇
SM =月2回	2Bd =年2巻 (冊数不詳)	6 N = 6	◇
M =月刊	2 N =年2回 (不定期)	8 N = 8	◇
BM =隔月刊	3 N = 3	12 N = 12	◇

2) [ ] は欠号があることを示す。

3) 寄贈によるもの。

4) D: デンマーク SD: スウェーデン P: ポーランド A: アメリカ合衆国 G: 西独  
E: 英国 I: イタリア Au: オーストラリア H: オランダ S: スイス F: フランス  
C: カナダ Be: ベルギー R: ソ連 J: 日本 EG: 東独

の部門別購読雑誌数を示した。この表からわかるように、48年度末現在購読中の和雑誌及び中国雑誌は合計19種、洋雑誌は83種である。この他、朝日新聞社から世界動物百科、日本モンキーセンターから *Primates* の寄贈を受けている。

第3表にこれらの雑誌のリストと発行回 (洋雑誌のみ)、刊行区分、所蔵巻、年号 (+印は継続購入中) を記した。なお、洋雑誌のリストには1974年度から購読しはじめた19種の雑誌も含まれている。(小山直樹)

## 5. 研究活動

### 形態基礎研究部門

近藤四郎・岩本光雄

岡田守彦・渡辺毅

#### 研究概要

1) 霊長類の姿勢およびロコモーションの生機構学的研究<sup>1)</sup>

近藤四郎・岡田守彦・早川清治<sup>2)</sup>

ヒトの進化においてパイベタリズムの果たした役割を客観的に評価するとともに、その成立をさぐることを目的として、調教されたチンパンジー—頭、ニホンザル三

<sup>1)</sup> 石田英実(京大・理)・木村賛(帝京大・医)との共同研究。

<sup>2)</sup> 文部技官

頭、クモザル二頭をもちいて、四足および二足歩行の生機構学的分析をおこなっている。本年度はとくに、支持足の動力学と関節運動および筋活動の関連を追求するために、歩行時の三次元床反力、16mmシネ、EMG等を同時記録し、種間比較、およびヒトや他の四足動物の資料との比較を行った。今後さらに例数をふやすとともに、テナガザル、ヒヒ等の資料を加え、霊長類の歩行運動の生機構学的特性を明らかにしてゆきたいと考えている。

2) 旧世界ザル、特にマカクに関する形質人類学的研究

岩本光雄

現生ならびに化石マカクについて形態学的観点から比較研究することを目的とし、若干の側面をとりあげてきた。昭和48年度における進行経過を概述すれば次のとおりである。

1. ニホンザル古骨について：資料としては北九州市小倉区平尾台、山口県秋吉台等より出土のサルを調査することができたが一見して現生ニホンザルと大きく変わるものはなく、従って例数を集積して今後一括報告の方針である。愛媛県肱川町敷水の石灰岩中より出土のマカク頭骨には、若干現生と異なる特徴が認められるので、これについて独立に記載を進め、中国産マカクと現生ニホンザルとの関係に関する考察の一助とした。

2. マカク頭骨について：マカクを中心とする旧世界ザルの頭骨多数について観察・計測の資料を整えつつ、当面、その矢状断面に関してアロメトリカルな比